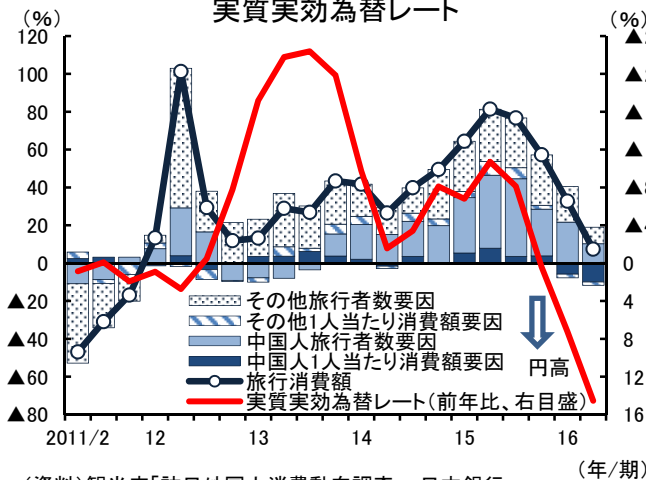


インバウンド需要拡大の波及効果

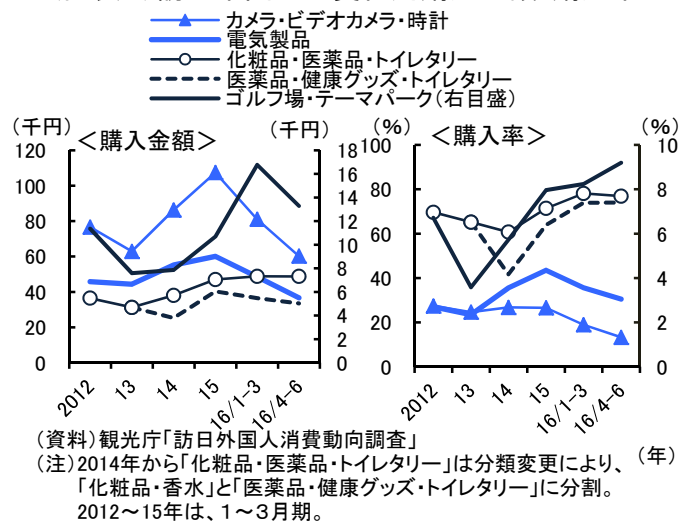
～ 非耐久消費財輸出や関連産業での設備投資が増加 ～

- (1) インバウンド需要に頭打ち感。訪日外国人旅行消費額は、2015年後半以降、増勢が鈍化し、2016年4～6月期は、前年比+7.2%にまで減速（図表1）。円高などを背景に、訪日外国人旅行者数は同+19.0%と増加傾向を維持しているものの、伸びが鈍化したほか、1人当たりの支出額は同▲9.9%と2四半期連続の減少。とりわけ、中国人1人当たり旅行消費額の減少の影響大。
- (2) もっとも、訪日中国人の消費を費目別にみると、円高等の影響もあり、高級品、電気製品で大きく減少している一方、非耐久消費財は底堅く推移（図表2）。また、購入率をみても、サービスや非耐久消費財の購入率は耐久財とは対照的に堅調維持。
- (3) 既往のインバウンド需要の拡大を背景に、輸出や設備投資ではプラスの波及効果が顕在化。まず、輸出についてみると、中国・アジア新興国を中心に、世界的に設備投資が減速するなか、主力の資本財輸出が低調に推移する一方、非耐久消費財を中心とした、訪日外国人の購入率が高い「インバウンド関連品目」の輸出は、アベノミクス始動後、大きく増加（図表3）。わが国製品の品質に満足した訪日旅行者が、帰国後に母国で製品を購入する、「リピーター」需要が拡大したことを示唆。
- (4) 次に、設備投資についてみると、インバウンド関連産業の設備投資額は、アベノミクス始動前から高齢化や後発医薬品のシェア拡大を背景に、大きく増加していた医薬品を除き、インバウンド需要の拡大に伴い、総じて全業種平均を上回る伸びに（図表4）。円高を機に、わが国のインバウンド市場は正念場を迎えつつあるものの、わが国のサービスや非耐久消費財に対する需要が拡大するなか、多言語対応や公衆無線LANなど、訪日旅行者の利便性向上に向けた投資に積極的に取り組むことで、需要を着実に取り込むことが必要。

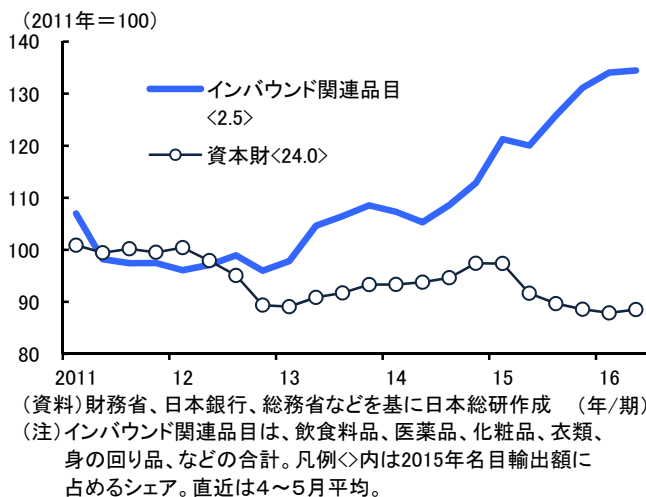
(図表1) 訪日外国人旅行消費額(前年比)と
実質実効為替レート



(図表2) 訪日中国人の費目別購入金額・購入率



(図表3) インバウンド関連品目と資本財の実質輸出



(図表4) インバウンド関連産業の設備投資

